

## 山口市文学碑巡り No16（鳴滝公園の中也詩碑）

国道 262 線を防府向かって進みに中国自動車道の山口 IC を過ぎて 2 km 程も進むと左手（東側）に「鳴滝公園」の道標が立っています。道標に従って道なりに進んで行くと山口市三滝（錦鶏の滝・鼓の滝・鳴滝）の一つである「鳴滝」を中心とした小さな公園があり、その一角に中也の「悲しき朝」の詩碑が建っています。2020 年 5 月に大内氏の遺構としての「泰明寺」と共に一度簡単に紹介しましたが、泰明寺住職の品川雷応師と、朝の鳴滝の落ちる風景を観て詠んだと言われています。一方で嘗て同棲して、友人の小林秀雄に奪われた恋人の長谷川泰子への思いを重ねているとも言われています。昭和 9 年に出した「山羊の歌」に収められていますが、実際に作った時期は昭和 4 年（22 歳）以前だと言われています。

### 悲しき朝

河瀬の音が山に来る、春の光は、石のやうだ。  
笥の水は、物語る 白髪の嫗にさも肖てる

雲母の口して歌ったよ、後ろに倒れ、歌ったよ、  
心は涸れて皺枯れて、巖の上の、綱渡り、

知られざる炎、雲にゆき！

響きの雨は、濡れ冠る！

・・・・・・・・

われかにかくに手を拍く・・・・・・・・

中也詩碑と鳴滝風景



（76 期 厚東一生）